

# あまみす

雨水利用を進める市民の会  
〒131 東京都墨田区東向島1-8-1  
☎03-3611-0573  
FAX 03-3611-0574  
1995. 9. 12発行. 第2号

## '95 雨水フェア 成功裏に

8月5日、すみだリバーサイドホール  
市民の会主催、墨田区共催で

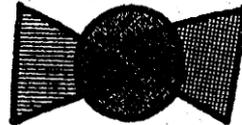


「'95雨水フェア」には会場を埋めつくす600人をこえる参加者がありました。朝日新聞、読売新聞は会議の様子を報じ、東京新聞は1面で「地震に強い街を」と呼びかけてくれました。会員のみなさんをはじめ、会議の裏方を務めてくださった区の職員のみなさん、ほんとうにお疲れさまでした。また、フェアに協賛いただいた団体、企業に心からお礼を申し上げます。

会副会長の岸野賢治、雨水利用を進める市民の会の徳永暢男、ひょうご創世研究会事務局の松本誠の各氏から、雨水利用は、ライフポイントとして、都市の防災面でも今後重要な役割をもっており、これからの防災まちづくりの中で積極的に推進していく必要があることが提言されました。  
(村瀬 誠)

∞ ∞ ∞

昨年の雨水利用東京国際会議では、雨水利用を「水資源」「都市環境」「雨水文化」という観点から取り上げ、「防災」という観点からはほとんど取り上げることができませんでした。そこで、今回のフェアでは、阪神大震災の被災地から関係者の方々をお招きし、震災と雨水について考えることになりました。



∞ ∞ ∞

神戸新聞の相川康子さんの司会で、午前と午後の部に分かれてパネルディスカッションがおこなわれました。午前のパネル1『大震災のとき水はどうなったのか』では、神戸市自治会連絡協議会会長の糟谷日出男、元建設省流域下水道課長で現在大阪経済大学教授の稲場紀久雄、元墨田区緑図書館長小島惟孝の各氏から、阪神大震災、関東大震災のとき、上下水道はどうなったかについて報告がありました。

∞ ∞ ∞

これを受けて、午後のパネル2『雨水でまちを守る』では、神戸市真野地区まちづくり推進

### 8月6日は雨水の日です 雨水フェアで宣言

昨年8月6日は雨水利用東京国際会議の最終日、雨水利用東京宣言が発表されました。

50年前の8月6日、広島に原爆が落とされ、放射能を含んだ黒い雨が被爆地に、人々に降りそそぎました。

「雨水の日」は黒い雨や酸性雨などの環境汚染をくい止め、きれいな空をとりもつ願いをこめた日です。

雨水利用をおこなう世界中の人々と手をむすび、地球を救う雨水利用の輪をひろげていく決意を新たにする日です。

雨水の日を日本中に、そして世界に発信していきましょう。

会場で

### パネルディスカッションでの

## 質問から

(会場参加者から寄せられた  
質問は40件ありました。)

(午前中は稲場さんに、午後  
は松本さんに集中しました)

#### 主な質問

- Q1 阪神大震災で下水道管や終末処理場が潰滅的打撃を受けた。合併浄化槽の設置が有効なのではないか。
- Q2 下水道施設の耐震性を上げるべきだという動きについてどう思われるか。
- Q3 非常時、水は何日分程度、どれぐらい必要か。
- Q4 震災後の被災した終末処理場の稼働状況はどうだったか。
- Q5 地域ごと、流域ごとで防災まちづくりをすすめるべきだ。
- Q6 都市の過密をそのままにして、自立・分散型都市の再構築は可能か。
- Q7 雨水からまちをつくることを発想すべきではないか。

☆ おっしゃるとおり、今回、東灘終末処理場は大打撃をうけて機能がマヒし、一時、隣接している運河の一部をしめきって沈殿処理をした。しかし汚水があふれ、海を汚染した。その影響からか赤潮が発生した。



☆ 下水道の耐震性もだいじだが、代替手段の確保こそ、いそぐ必要がある。



☆ 水について。パリの人道援助組織から阪神に派遣されたビエル教授はつぎのように指摘した。「一日の必要量は国連基準でひとり15リットルです。阪神では3ないし4リットルしか確保されていない。これはアフリカザイルの難民キャンプより苛酷です」。最低でも1.0リットルは必要だと思う。



☆ (合併浄化槽については十分な討論時間がありませんでした)。(以上、稲場氏)



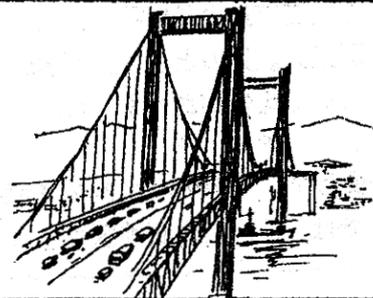
☆ これからの震災復興計画はライフラインから、ライフポイントへ、自立・分散の思想を確立する必要がある。そういう考え方に裏付けられてこそ、雨水利用は意味をもつと思う。(以上、松本氏)

#### 〇ピーで

パネルや技術部会の展示物、書籍販売などで賑やかでした。雨水利用相談コーナーも盛況。休憩時間に20件の相談をうけました。主に雨水の集め方、処理方法、溜め方などです。浄化槽の雨水タンクへの転用、雨水利用の情報提供、酸性雨の調査方法などの相談もありました。

#### 屋形船交流会

楽しかった。市川さんと佐原さんの司会も、徳永さんの歌も、ユリカモメにえさをやったことも。いろいろな人とのおしゃべりも。おいしかった。(ビールも。)



雨水  
アイデア

第1回

# 雨水コンテスト

## 利用

雨水はその気になれば誰でも利用することができます。その技術は庶民の知恵のかたまりです。英知を集め、情報を交換するために、雨水利用コンテストの場を設けました。



募集に対して、応募件数は80で、内訳は実践部門30アイデア部門50でした。

1次審査は市民の会の技術部会員を中心に15人でおこなわれ、2次審査は辰濃和男会長、鈴木信宏東京理科大学教授、深野一技術部世話人、佐藤清環境建築家の4人の方でおこなわれました。

### 実践部門をみて

情報部 小川幸正

身近な材料を工夫して雨水利用をしている方が多くおられることに頭が下がる思いがしました。北は岩手県から南は福岡県まで、広い地域からの応募がありました。

応募された雨水利用は、おおかたが個人住宅用でした。

雨水の貯留タンクはポリバケツから700㎡ものコンクリート製まであります。廃品となった風呂桶、ドラム缶、瓶なども利用されています。

利用目的は植木散水が圧倒的に多く、トイレ12件、風呂、洗濯も4件ありました。

### 受賞者の皆さん

#### <実践部門>

最優秀賞 永井秀次郎

「水平屋根に雨水をためて  
屋根を冷やす」

優秀賞1 秋山芳明

「初期雨水カット装置と天  
水槽の中に濾過層を設けて  
雨水を浄化」

優秀賞2 大壁幸一

「不要浴槽を高低差をつけ  
て設置してきれいな雨水を  
集める」

佳作1 白井章二

佳作2 筒中シート防水盤

佳作3 鈴木稔

(敬称略・アイデア部門  
は裏面へ)

おは  
いちは



桑島正治さん

「雨水の歌」で  
アイデア部門優秀賞受賞

「漫才師になっても食べていけるわね」

8月5日、屋形船でご一緒に話し合う内、そんな失礼なことを言ってしまったほど、気さくで楽しい人だ。

松山市在住。写真屋さんに勤めている。若いころから、カメラをもって自然の風景を求めて四国の山をあるきまわった。おそろおそろお電話をすると、そんなことから話しはじめてくれた。今も10歳ほど年下の奥さん、小学生の娘さん2人の家族でキャンプやカヌーを楽しむ。

自然とふれあう中で「水」への関心を育てていた数年前、書店で村瀬さんの本をみつけた。「それが、こんななるキッカケでした」ドラム缶のタンクを家の前にとりつけた。

道を通る人と雨水のはなしがはずむようになったという。今回、作詩作曲した「雨水の歌」がアイデア部門の優秀賞になって、地元のテレビが2局、取材に来て放映された。

8月中旬の3日間、松山市では阿波踊りならぬ松山踊りがサンバのリズムでくりひろげられる。共通点はサンバのリズムで曲も振付も自由である。奥さん、30人の子供たちと一緒に桑島さんも商店街を踊りあっていた。天水尊と書いたドラム缶を先頭に、曲はもちろん「雨水の歌」である。「企業のグループが多いから、子供たちの踊りは話題になりました。みんな、楽しかった言うてます」

さぞ、宣伝になったでしょう。行動的で、アイデアマンで、素敵な47歳です。(い)

<アイデア部門>

優秀賞1 桑島正治

「雨水の歌」

優秀賞2 宮川幸久

「植物の蒸散を利用して屋上の冷却を行う」

優秀賞3 松崎康恵

「庭の植物に雨水をまく、うまい方法」

佳作1 久保敦義

佳作2 山本訓弘

(敬称略)

◎雨水フェア・アンケートの結果

102人の参加者の方からアンケートが寄せられ、多くの方が参加してよかったと答えました。来年も雨水フェアが開かれれば参加すると答えた方は80人いました。取り上げてほしいテーマとしては「雨水利用促進策と行政への働きかけ」「国や自治体の雨水利用の取り組み」「住宅などの雨水利用」「雨水の環境汚染」などがありました。

◎加入申し込み

当日、加入申し込み受付をした結果、企業1、個人29人の申し込みがありました。その後も事務局に相次いでいます。

# 部会だより

教育部会

第2期雨水探検隊は、隊員を新たに募り、世話役の大人たちも新メンバーが加わりました。「自分の足で回り自分の手で作る」のモットーは第1期と同じです。探検隊活動は年3回、一回一回をより充実させるため、ゆったりペースにします。他団体との交流、ネットワーク作りも課題です。

第1回探検隊は8月20日に開催。水辺の動植物の観察と、ラオスの子どもたちと交換するために水をテーマにした絵を描きました。第2回は11月11日の予定です。(荒川)

文化部会

雨の歳時記を上梓することが今年の課題である。1年を冬の雨、春の雨、梅雨、夏の雨、秋霖、時雨に区分して私たちと雨との暮らしを顧みる本にしたい。年内脱稿を目標に、今回は作業分担や日程を決める。(篠原)

情報部会

7月27日に最初の部会を開催。雨水利用を行っている施設の調査、および内外の関連団体からの情報収集を決めました。興味をお持ちの方はぜひご連絡を。(小川)

技術部会

9月5日部会開催。東京国際会議実行委員会から今日に至る、部員のアイデアや作品の図面、写真などを収集して、ファイリングすることを決定した。部員が共有する権利を多少でも守りたいし、公開することが会の利益に結びつけば、と期待する。定例会は毎月第1火曜日。6:30より。(深野)

◆『すみだ'95防災フェア』

— 9月1日 —

防災フェアが東京都震災記念堂前で行われました。市民の会から会員12名が参加、墨田区の職員の人たちと一緒に防災に役立つ雨水利用をPRしました。

混み合う通路で、雨水のコーナーはいつも人だかりがありました。ペットボトルなどでの雨水濾過の実演も大人気。市民に雨水を飲んでもらう様子や会員が開発したタンクなどが9月4日夕方のNHK首都圏ニュースで放映されました。

「やってみよう雨水利用」

◆講座のご案内

11月1日から5回、雨水利用の市民向け講座が開かれます。

場所 すみだ生涯学習センター  
講師 市民の会の「最強メンバー」の面々です。

受講料 3000円

申込みは、学習推進委員会事務局(5247-2006)まで。